

「火垂るの墓」の舞台を歩く・・・松田龍泉

「火垂るの墓」は野坂昭如の小説で、アニメ映画にもなり、絵本も出版されている。数年前テレビドラマにもなり、映画も作られるそうです。

この物語の舞台が西宮と神戸だということを知ったのは、私が西宮に来てからのことでした。

そして、何度か舞台になった所を歩いてみました。空襲で私も辛い思いをしたので、これは物語だとわかっているが、清太と節子がたどった運命がひとつとは思えないのです。

あの戦争中の空襲で命を落とした子供たちは何十万といるでしょうし、幸い生き残った人たちも、空襲で家を焼かれ、怪我をし、飢えに苦しんだあの時代を思い出してほしいのです。

歩いた所を写真に撮りました、アニメ映画や絵本とくらべて見て頂きたいとおもいます。

この物語は、プロローグで清太の死が語られ、空襲を受けたところから始まる、それは「御影の浜に近い自宅」でした。（著者が空襲にあったのは経歴では神戸市灘区中郷町）

まず、行ったのは、御影公会堂。昭和20年6月5日の空襲でも焼け残り、阪神大震災でも倒壊せず、昭和初期に建設された姿を保っています。

国道をはさんだ南側の石屋川のほとりにアニメ「火垂るの墓」のシーンが描かれた記念碑があります。



(火垂るの墓の記念碑)



(御影公会堂)

御影公会堂の西側に神戸市灘区中郷町があります。今の中郷町は普通の住宅地で、おそらく空襲を受けた時も、普通の市民の生活の拠り所であったとおもわれます。

こんな所に爆弾や焼夷弾をおとすことは、どんな理由をつけても「不当」だと私は思う。

「空襲」に対して「どんな立場で、なにが言いたいかが明確にするべき」とのご意見をいただきました。それに対し、私は「私の立場は生まれてから今日まで一市民で、訴えたかったことは、あの時紙一重で生死を分けた状況に私がいたことです」とこたえましたが、「不当」と言うことは「一市民の立場」できっぱり言いたい。

最近の例で言うと、ニューヨークのツインタワーにテロ集団が航空機で突っ込んだことも、アメリカがそれを理由にアフガニスタン、イラクに軍隊を侵攻させたことも「不当」だと私は思う。

アニメ絵本では、御影公会堂は焼け野原に焼け残って石屋川の海浜に近い川床からも見えている。

次に、清太が妹の節子連れて逃げた石屋川の河口に行く。ここは、埋め立てされ、工場の敷地になっていて、当時の面影はない。石屋川に似ている夙川がまだ、昔の面影を残している。



(石屋川河口)



(夙川河口)

その次行ったのが満地谷とニテコ池。清太と節子が一月余の短い生活を過ごしたところ。横穴防空壕がありそうな斜面がいまでもみられる。蛭を壕の中に放したことが、この物語の題名になっている。節子はここで死ぬ。清太は炭を買ってきて、池を見下ろす高台で茶毘に付し、骨を節子が持っていたドロップの缶に入れてもっていく。

ニテコ池の由来(越水浄水場のパンフから)ニテコ池は上池、中池、下池の3池が並び、隣接する越水浄水場の予備貯水池になっていますが、浄水場ができるまでは農業用のため池として使われてきました。この池は、むかし戎(えびす)神社の練塀を築くときに、土を掘り取ったあとだといわれていますが、地形的に見て谷の出口をせき止めたもので、一説には丸屋弥三郎という人が、毎年のように水不足に悩む農民を助けるために、役所の許可を待ちきれずに池をつくったともいわれ、この池のほとりで処刑されたといわれています。

ニテコの地名は、戎神社まで土を運ぶ人たちのかけ声「ネッテコイ、ネッテコイ」が「ネテコ」となり「ニテコ」になったといわれます。そのほか、秋田県に同じ地名があり、アイヌ語で「森の中の水たまり低地」を意味する「ニタイコツ」が語源だともいわれており、付近に清水がわき出している地形もよくにっています。

また、ニテコ池にまつわる伝説として、下池のほとりの聖霊塔のことは、結婚に反対された恋人たちが心中をしにくるところで、池の端に背の高い石碑が建てられたとのこと。



(ニテコ池)



(聖霊塔)

次に阪神夙川駅から南に回生病院のある海岸をめざす。夙川の土手は戦争中には、畑になっていたことをうかがわせる。清太は畑からトマトやナスなどを手に入れたのだろう。この道を清太は節子のあせもを治すため海水浴に通った。

回生病院の見える浜。この海岸で清太と節子は、母と行った楽しかった海水浴を思い出し、水浴びをした。最後にいったのが、JR三宮駅、構内のタイルのはがれた柱にもたれて清太は死ぬ。



(回生病院が見える浜)



(JR三宮駅、構内の柱)

小説と著者の経歴に出てくる地名と事柄

(# 物語の事柄が起こった場所 * は著者の経歴に出てくる場所)

A 省線三宮駅構内の浜側の、化粧タイル剥げ落ちコンクリートむきだしの柱

(# 清太が9月21日死んだ場所)

B 御影の浜に近い自宅(著者の経歴では神戸市灘区中郷町)

(# 清太達が空襲を受けた家 * 著者が6月5日空襲を受けた場所)

C 石屋川の堤防・石屋川の海岸と浜に近い川床

(# 清太と節子が空襲をさけて逃げた所)

D 御影公会堂

(# 清太が見た焼け跡に残った建物)

E 御影国民学校

(# 空襲後の集合場所、母が死んだ場所)

F 西宮の親戚の家(満池谷町)

(* 清太と節子が身を寄せた親戚の家 * 著者が身を寄せた親戚の家)

G 夙川の堤防

(# 清太と節子が海へ通った道)

H 満池谷町の横穴防空壕のある池(ニテコ池)

(# 清太と節子が親戚の家を出て、7月6日から8月22日まで過ごした所、節子はここで死ぬ)

夙川河口の回生病院の南の浜

(# 清太が節子のあせもを直すために来た海)

(2009・08・10)